

なぜ日本人は手作りマスクを作るのか？

今年2月以降、日本でも新型コロナウイルスの感染が拡大し、現在も猛威をふるっています。4月に全国で緊急事態宣言が出されたあとは、外出自粛をする人が増え、社会に大きな影響がありました。とくに深刻な問題となったことの一つがマスク不足でした。

中国の企業や団体、個人から日本の各地にたくさんのマスクの寄付をいただきましたが、それでも足りませんでした。毎日ドラッグストアまで出かけて、マスクを探し求めている日本人がとても多く、困っていたのです。そんな中、日本人の中から、マスクを手作りしようとする人が現れました。

3月中旬ころ、私の家でもマスクが足りなくなり、東京都内にある手芸店に足を運んでみると、マスク用の生地が売られているコーナーには、すでに大勢の女性が群がっていました。皆、マスクを作るのに適したガーゼ生地とマスク用ゴムひもを求めているのです。



マスク用の生地を販売する東京都内の手芸店

その頃はまだガーゼ生地の種類が少なく、購入できるのは1人2mまでという購入制限がありましたが、私は早速その生地とゴムひもを買って帰り、家にあるミシンを使って数

枚のマスクを作り、親戚や親しい友人に配りました。その中には中国人の友人もいましたが、私がマスクをプレゼントすると感激してくれて「マスクが足りなければ、すぐに自分で作ろうとする。そういう発想がある日本人は素晴らしい」と褒めてくれました。

私に限らず、多くの日本人がマスクを手作りしたのは、慢性的なマスク不足というやむを得ない事情があったからで、最初のうちは積極的に作っていたわけではありませんでした。ですが、その行為は、思いがけず中国など海外の人々から褒められ、注目を集めるようになりました。

とくに小池百合子・東京都知事が記者会見のたびにおしゃれな手作りマスクをしていたことが中国のメディアでも報道されたことが大きかったと思います。

日本人がすぐに自分の手でマスクを作ってみようという気持ちになった背景には、主に2つの理由があると思います。1つ目は小・中・高校時代に、家庭科の授業があり、裁縫をすることに抵抗がなかったことが挙げられます。

現在50代の私が学生だった頃は、家庭科の授業は女子だけが学ぶ科目でした（同じ時間に男子は別の教室で技術科という科目を学んでいました）。家庭科の授業では主に料理と裁縫を学びました。

しかし、政府の方針により、1993年からは中学校で、1994年からは高校で、家庭科の授業は男女ともに学ぶ必須科目に変更になりました。ですので、現在40代前半以下の年齢の日本人は、女性だけでなく男性も家庭科の授業を受けており、一通り、簡単な裁縫をすることができます。

日本では子どもが幼稚園に通うとき、幼稚園で使う袋を用意しなければなりません。その多くは手作りなので、母親はミシンを買い、子どもの袋を作ります。そのため、もともと家庭にミシンがあり、いつでも裁縫ができる、という人が多いことも挙げられます。

もうひとつの背景としては、日本には手芸店が数多くあり、裁縫をしようと思った人が、比較的簡単に、すぐ裁縫の材料を購入することができるという生活環境があることです。東京都であれば大型の手芸店がたくさんありますし、地方都市でも小さな手芸店はたくさんあります。



マスク制作の講習会もさかんに行われている（都内の手芸店で）

マスクを作るには、マスクに適したガーゼ生地や、マスク専用のゴムひもを購入する必要がありますが、それらをすぐに手に入れられたからこそ、日本では4月以降、手作りマスクを作る人が急増したのだといえます。現在では、自分や家族、友人が使うだけでなく、手作りしたマスクを、手作り品専門のウェブサイトに出品して販売している人も数多くいます。

当初、手作りマスクは必要に迫られて作ったものでしたが、今では自分の好きな色や柄を楽しんで作ったり、手作りマスクを買ったりしています。新型コロナがなかなか収束しない日本ですが、少しでも気持ちが明るく、前向きになるようにと思って、マスクをつけている日本人が多いのではないかと思います。

文 中島 恵